【果樹】じゃぼん栽培の取組（じゃぼん推進協議会）　【広島県東広島市安芸津町】

じゃぼん（香酸柑橘）に着目したポイント

100年以上前に九州から苗木を持ち帰り、安芸津地域のみで栽培。香酸柑橘でありながら糖度が高い特徴を有し、ナリンギンをはじめとする機能性に着目した取組が行われている。

取組産地の概要

・昭和38年の極東寒波の被害を受け、「じゃぼん」の樹がわずか数本を残すのみとなったことを契機に、古い文献や地域の生産者の話から「じゃぼん」の存在を知ったJA芸南が推進協議会を平成23年7月に設立。

・広島大学農業サークル「じゃけん農！」とも連携し、じゃぼんを地域に根付かせるためのPR方法など、地域一体となった推進を行っており、町おこしの気運が高まっている。

じゃぼんの実、じゃぼんサイダー

じゃぼんの樹

【地域の連携状況】
・「じゃぼん推進協議会」はJA芸南が設立を提案し、芸南果樹研究同志会、広島県、東広島市など8団体が参画して、地域一体となってじゃぼんを推進。

生産条件

・柑きつ類の栽培が可能な地域であれば栽培可能。
・中晩柑類の栽培暦に準じた生産。
・JA芸南管内でのブランド化を目指し、管外へ苗木等の流出を禁止。

ブランド化

・25年から西条農業高校と安芸津特産のじゃがいもとのコラボした6次産業化商品を開発。
・JA広島果実連と連携し、じゃぼんサイダーを商品化。

取組農家の拡大

・果樹研究同志会において苗木を育成し、格安で配布。
・JA買取価格をレモンより高く設定し、栽培面積の拡大を推進。

【実績】
・25年から苗木を配布し、植栽本数約1000本。
・28年収穫量は約4トン。
・JA直売所においてじゃぼんサイダーを販売。

【今後の展望】
・目標栽培面積3ha、目標生産量120トン。
・生果で売る原点に立ち返り、出口戦略の構築。
・じゃぼんの種の抗菌作用を調査検討。
・じゃぼんの特徴を売りに差別化を図る。
・原料の100%使用に向け、生果、飲料、パウダーの3パターンでの活用方法を確立。